

浄土真宗本願寺派総長 石上智康様

2015年8月31日
非戦平和を願う浄土真宗門徒の会

再度の要望書

浄土真宗本願寺派は現政権に対して戦争法案を意味する安保法制を撤回し廃案にするよう宗派声明を出すことをもう1度強く求めます。

7月13日に郵送済みの1回目の要望書に未だにお応えいただけないので再度要望します。

7月21日11時に総長様から電話での回答を「様々な意見があり宗派として見解が統一できていないので声明を出す出さないをも含め何も決まっていな。平和に関する学びを深める為に教学研究所の総括を待たねばならない。」といただきましたが戦後70年間、熟睡されていたのでしょうか？

8月10日に出された総長談話は明確な安保法制反対ではありませんし、まるで他人事のように門徒として失望しています。様々な意見があっても立脚地が親鸞さまに立ち返れば自ずと歩む方向は見えるのではありませんか？

戦時教学の反省と遺族への謝罪もなく今また戦前という現状に際しても黙認し続ける教団には宗祖親鸞さまは不在です。

2008年には教章も改訂され、生活の箇所には”親鸞聖人の教えに導かれて”とあります。

私達、門徒の生活は「人道世法」に遵って生きるのではなく仏法を拠りどころに生きることになりました。

70年前、宗門は世間に迎合し戦争を推進しました。今回も世間の顔色をうかがい黙認しています。

このままでは70年前と同じあやまちを繰り返す私達、門徒を戦地へと送り出すこととなります。

社会のことに何も発信できない宗門から心ある門徒は離れていきます。

本願寺教団が教えに生きようとする私達門徒を再び裏切るようならば、私達の心はもはや教団を離れてしまいます。

宗派として国が決論を出すまでに明確な安保法制反対の声明を出されるよう再度強く要望します。

以上

名 前	住 所

呼びかけ人

石橋純誓

広島県呉市阿賀中央2-4-14

電話 (0823) 74-9222